

広報

# のぼりべつ

●No. 365 ●昭和58年2月15日発行 ●発行／北海道登別市 ●編集／総務部企画広報課 ●印刷／北海印刷

## 主な内容

- 順調に進む調査ボーリング 期待される地熱発電…………… 2P
- すぐすぐ育つサケの赤ちゃん=今春も 370万匹放流へ=…………… 3P
- ご参加ください 第8回市民憲章推進会議…………… 3P



## 名スキーヤーを夢みて 登別カルルススキー学校

「はい、右足に力を入れながらゆっくり曲って。」……………。  
一面の銀世界に色とりどりのヤッケが映える、ここカルルススキー場では、毎週日曜日、初心者のためのスキー学校が開かれ、将来の名スキーヤーを夢みるチビ子たちも真剣にストックをあやつっています。

この学校は、全っくの初心者から中級、上級のランクに応じた内容の濃い指導をしているもので、最初はオッカナビックリだったチビ子も先生の手とり足とりの指導を受けると、わずか1日でブルークボーゲンができるようになります。

冬の運動不足で、おなかの脂肪が気になっているみなさん、コースが整備され楽しさの倍増したカルルススキー場で快い汗を流してみてはいかがでしょうか。ちなみにスキー学校では、大人の初心者も大歓迎しているとのことです。希望されるかたはS A J 公認登別カルルススキー学校(田42872)へお問い合わせください。

2 '83  
2.15

# 順調に進む調査、ボーリング

## 期待される地熱発電

石油に支えられた現代の文明社会に「黄色号」がどもり、省エネエネルギーの推進がかかる一方で、石油にかかる代替エネルギーの開發が急がれています。

## 有望な地熱開発

現在、ボーリング調査が行われているのはカルルス地区で、予想していましたが、六百台で早くも予想を上回る地熱が確認されています。

調査は地質構造と熱量調査が主で、高さ二十五㍍のヤグラの中で油圧式のロータリーマシンを使い二十四時間体制で進められています。

予想していましたが、六百台で早くも予想を上回る地熱が確認されています。要となってきたが、温度の面では充分に発電の可能性があるとみられています。

また、五十六年度に上登別地区で出光地熱開発が行なった第一次

エネルギーの開発を目的としたボーリング開発が進められ、地熱発電に達し、深度二千㍍では商業発電に可能な温度（一七〇～二二五度）が期待できるという結論が出され

ており、今後、さらに調査が進められることになりますが、今回のカルルス地区での調査とあわせて地熱開発への期待が高まっています。

## 地熱発電と経済効果

地熱発電は、地下から噴き出していく蒸気の力によつてタービン発電機を回すという、至つて簡単

な原理で、エネルギー資源の大半を外国の石油やガスに依存している日本にとって、地熱は天与のエネルギー源であり、道内では、森

町の地熱発電所が昨年十一月から

営業運転を開始するなど、日本各

地でその活用が進められています。

また、蒸気とともに噴出する熱

水は、これまでほとんど利用され

ることなく、再び元の地下へ送り

返されましたが、ざつと蒸気

の四倍もの豊富な量があるため、

熱水発電も開発され、蒸気発電と

あわせて地熱エネルギーの効率的な活用がはかられています。

さらにこうした热水は、地域の集中暖房をはじめ、野菜の温室栽培、観光面での活用と、多方面に生かすこと可能で、市内経済に与える影響は計り知れないものが

あると、いまから期待されています。

恵を出し合い、地熱開発へのコンセンサスをつくり出すことが今後の課題といえます。



## たばこの罪

### ——火災の原因

春の全国火災予防運動 2月28日～3月13日

## 投げ捨てたばこ

たばこが火災に結びつくのは「投げ捨て」「落とし」「消し忘れ」のときで、この三つが「たばこによる火災」の八五%を占めます。

たばこが原因となった火災で、いちばん多いのが「投げ捨て」によるもので、約六割です。風に吹かれて転がつていつたり、踏んで消したつもりでもくすぶつていたりして危険です。たばこの吸い殻は必ず灰皿へ。

## 落 下 たばこ

灰皿に置いたままになつていただばこが、たたみやじゅうたんに落ちる。火をつけたまま持ち歩いたたばこの火が落ちたばこ火災の約二割は、「落下」によるものです。

## 消し忘れたばこ

毎年、二月～三月にかけては、空気が乾燥し風も強く吹くため、たばこが、たたみやじゅうたんに落ちる。火をつけたまま持ち歩いたたばこの火が落ちたばこ火災の約二割は、「落とし」によるものです。

何本も何本も吸つているうち消したか消きないかを忘れ、そのまま席を立つてしまふ。たばこ火災のうち三番目に多いのは「消し忘れ」です。





